

いのちがつながっていくこと



ラブリーアースJapan
代表 古川 てる子

山に登ったり、森に入ったり、水辺に行ったりするとき、日本の自然の豊かさに、あらためて感動します。



一滴の水が、深い森からふもとまで、水を集めて山里にあり、流れとなって海へ注ぐ……私達はこの恵みを受けて生きていける。

人間も地球のなかに生かされている存在として、自然の一部として、どうかかわって生きていけばいいのか考えていこう、そんな人たちを増やしていこう。

そんな思いで、ラブリーアースをつくりました。具体的に何をしたらいいのか、手さぐりで始めました。今年で3年が過ぎ、私たちの考えかたに共感してくださる人たちも増えてきて、たくさんの友人が出来ました。そうしたつながりの中から、次々と出会いが生まれ、学び合い高めあっていくことが出来つつあります。

今はまず、若い人、子どもたちを自然の中へいざなうこと、触れること、自ら動くこと、体験すること、より正しい知識を楽しく学ぶこと、そんなことをしようとしています。

フィールドは、近くの森でも山でも川でも、田んぼでも畑でもいい。小さな空き地に草が生え、木が育ち、昆虫が来て、鳥が訪れる、自然が豊かになっていく。不思議があり、驚きがある。

身近な自然を大切に、そこにある自然から学ぼうと思っています。名古屋市内に残る小さな緑地で、(その中心部に道路建設工事が進み、今は中断しているのですが)月1回自然観察を行っています。そこでは、5月下旬から6月初旬、陸生のヒメボタルがとびます。約1週間の命の光を出して、次へ命をつないでいって、来年もとんでくれるでしょう。

そんなことを子どもたちに伝えていくことも、私たちのしごとだと思います。

水源の森、長野県王滝で、大自然の一端と人のかかわりを体験することを年数回、木を切ったり(人工林のカラマツ間伐)、山菜を採ったり食事をしたり、と楽しむことから、始めています。



王滝村ラブリーアースの森にて

大震災で、深く悲しい被害を受けてしまいましたが、自然も人間も、やがては元に戻っていける力を持っていると思っています。

いろいろな人がいろいろな場所で、さまざまな形でかかわっていくことが大切だと思います。ミクマリの人たちも心強い仲間として、これからもおつきあいください。

地球上の全てのいのちが未来へつながっていくことをねがって、いとおいしい地球(ラブリーアース)に生きる仲間どうしとして。



200歳のブナ:冠山峠(九頭竜川と揖斐川の分水嶺)

2011年6月

ラブリーアースJapan事務局

〒457-0863 名古屋市南区豊4-22-10

TEL/FAX 052-821-6463

E-mail : viva_forest@yahoo.co.jp

HP : ラブリーアース 検索

<http://lovelyearth.webdeki-hp.com/>